

植物名	科名	属名	別名	自生・植栽場所	平均開花 確認日	解説	備考
アキチョウジ	シソ	ヤマハッカ		中水池下	9/8	山地の半日蔭に生える多年草。葉は対生し柄があり狭卵形。花期は9～10月、茎の先や葉のわきから花穂を出し、花柄の先に青紫色の唇形花をつける。和名は秋に丁字形の花を開くことによる。	
アキニレ	ニレ	ニレ	イシゲヤキ カワラゲヤキ	芝生広場 見本園	9/6	山野の荒地、川岸や河原に生育し、高さ15mほどになる。葉は互生し、葉身は長さ2.5～5cm、幅1～2cmの長楕円形。花期は9月で、本年枝の葉のわきに両性花が4～6個ずつ集まってつく。実は10～11月に成熟する。	
アケボノソウ	リンドウ	センブリ		園内谷	9/15	山野の湿り気のあるところに生える2年草。茎の先に枝を分けて、9～10月に有柄の白い花を開く。花冠は深く5裂し、裂片には径1.5mmの黄褐色の蜜腺溝が2個と、濃緑色の斑点が多数ある。和名は曙草で、花冠の斑点を夜明けの星空に見立てたもの。	
イヌザンショウ	ミカン	サンショウ		第2苗畑、溪流路	7/26	林縁や道端などに生育、高さ3m。花は雌雄別株、7～8月に枝先に3～8cmの散房花序をだし、黄緑色の小さな花を密につける。果実は3個に分かれ、9～10月に熟す。サンショウは刺が対生するが、本種は葉や果実に香りが少ないことで区別できる。	
オタカラコウ	キク	メタカラコウ		薬草園奥	8/27	深山の沢沿いなどに生息し、高さ1～2mになる大形の多年草。夏から秋にかけて、黄色の花を総状につける。	
キンモクセイ	モクセイ	モクセイ		管理事務所横他	9/20	ギンモクセイの変種。中国から渡来したとの説だったが、日本でウスギモクセイから育成されたという見解もある。葉はギンモクセイよりやや薄く、小形で細長い。花は直径4～5mm、橙黄色で強い芳香がある。日本では雌株しか知られていない。	
ギンモクセイ	モクセイ	モクセイ		見本園	9/20	中国原産。樹高は3～6mになり、縦に裂け目のある淡灰褐色の樹皮をしている。雌雄別株、9～10月に白い小さな花を束ねて咲かせる。花には芳香があるが、キンモクセイほど強くはない。	
クズ	マメ	クズ		園内	7/16	山野で普通に見られる大型のつる性草本。葉は3小葉。7～9月に紅紫色の蝶形花が穂状に集まって咲く。根にでんぷんを含み、これを葛粉にして食用、薬用に供する。和名は奈良県の国栖(くず)が葛粉の産地であったことによる。	
コシアブラ	ウコギ	ウコギ	ゴンゼツノキ・ゴンゼツ	林間広場	9/21	山地の林内に生育し、高さ5～20m。花は8～9月に黄緑色の小さな花を多数つける。果実は10～11月に紫黒色に熟す。若い葉は香りがあるがやわらかく、山菜として食用されている。	
コマツナギ	マメ	コマツナギ		センター池ほとり	8/19	草地や川の土手、道端などの日当たりがよく、やや乾いたところに群生する。高さ40～80cmの草本状の小低木。葉は奇数羽状複葉。小葉は7～13個ある。葉腋に長さ4～10cmの総状の花序をだし、淡紅紫色の花をやや密につける。	
サルスベリ	ミソハギ	サルスベリ	ヒヤクジツコウ	和風庭園他	8/4	中国南部原産で江戸時代以前に渡来、高さは大きいもので10mになる。花は7～10月に百日近くにわたって咲き続ける。花色はピンク・白・赤などがある。名前の由来は、木肌がなめらかで、猿もすべり落ちるという意味から。	
シマサルスベリ	ミソハギ	サルスベリ		第2苗畑	9/5	林内や林縁に生育し、高さ20m。本年枝は4稜あり、葉は対生または互生。花は6～8月、枝先の円錐花序に白い花を多数つける。果実は7～10mmの楕円形で熟すと6裂する。	
十月桜	バラ	サクラ		苗畑他	9/13	暖地では10月頃から開花をはじめ、冬を通して少しずつ咲き、春になり多数咲かせる。花は淡紅色または紅色の八重咲き。果実はまれに結実し、黒紫色に熟す。径約0.8cm、苦味がある。冬咲きの花は小形で、春先の花は大形。	
シリブカガシ	ブナ	マテバシイ		城前橋上	9/4	花は雌雄同株で9月頃、本年枝の先端や葉のわきから花序が伸びる。どんぐりは翌年の秋に熟し、底がへこんでいるので尻深(シリブカ)の名がついた。渋がなく食料として利用できる。広島市の二葉山は日本最大規模のシリブカガシの森である。	
シロダモ	クスノキ	シロダモ	シロタブ	東山作業路	10/18	暖地の山野に生育し、高さ10～15mになる。新枝と若葉は黄褐色の絹毛におおわれて良く目立つ。花は雌雄別株で10～11月に黄褐色の小さな花が咲く。果実は翌年の10～11月に赤く熟す。種子からとれる油でロウソクをつくっていた。	

植物名	科名	属名	別名	自生・植栽場所	平均開花 確認日	解説	備考
シロバナマンジュシャゲ	ヒガンバナ	ヒガンバナ		管理事務所前	8/29	人里に近いところに群生する多年草。昔、中国から渡来したものが広がったといわれる。9月にりん茎から30～50cmの花茎をだし、花を輪状につけ、花後に線形の葉を広げる。本種の花は白色である。	
タラノキ	ウコギ	タラノキ	タランボ	園内	8/18	花は8～9月、幹の先端に淡緑白色の小さな花を多数つける。樹皮には刺が多い。新芽はタラの芽として山菜人気があるため、野生のタラノキは減少している。保護のためにも芽の収穫は1回だけにとどめ、幹の伐採は慎みたい。	
チャノキ	ツバキ	ツバキ		作業舎裏	9/21	僧栄西が中国より持ち帰り、日本に広まった。葉は互生し、長さ4～10cmの長楕円形で先は鋭くとがり、縁には細鋸歯がある。10～11月に開花し、白色で径2～3cm。花弁は5枚。果実は11月に熟し、さく果は3裂する。	
ナンバンギセル	ハマウツボ	ナンバンギセル	オモイグサ	第3駐車場 西ゲート向	8/29	1年生の寄生植物で、ススキやミョウガなどの根に寄生。葉の腋から花柄を直立し花をつける。和名は南蛮煙管で花の形によるもの。別名のオモイグサは万葉集の歌にもある。	
ヌルデ	ウルシ	ヌルデ	フシノキ	園内	8/25	花は雌雄別株、8～9月に白色の小さな花を円錐状に多数つける。果実は10～11月に黄赤色に熟す。幹を傷つけると白色の樹液がしみだし、器具などに塗ったことからヌルデといわれる。葉にできた虫えいは五倍子と呼ばれ、薬用や染料などに利用される。	
ハナゾノツクバネウツギ	スイカズラ	ツクバネウツギ	アベリア ハナツクバネウツギ	管理事務所前法 面他	6/29	よく分枝して茂り、高さ2mほど。花は6～10月、枝先や葉脈から円錐花序をだして、1.5～2cmの漏斗状の花を多数つける。花は白色でふつうやや淡紅色を帯びる。花後に萼片が残りよく目立つ。結実はしない。	
ヒガンバナ	ヒガンバナ	ヒガンバナ	マンジュシャゲ	管理事務所横 水生植物園	9/8	人里に近いところに群生する多年草。昔中国から渡来したものが広がったといわれる。9月にりん茎から30～50cmの花茎をだし、赤色の花を輪状につけ、花後に線形の葉を広げる。和名は彼岸のころ咲くことから名付けられた。	
ヒヨドリバナ	キク	ヒヨドリバナ		浄水場内	9/20	各地の山地に多く見られる高さ1～2mの多年草。花期は8～10月、頭花は散房状につき、少数の筒状花からなる。筒状花は白色だが、まれに紫色を帯びる。和名は、ヒヨドリの鳴く頃花が咲くことに由来する。	
ボタンヅル	キンポウゲ	センニソウ		芝生広場横法 面入口付近	8/3	日当たりのよい山野に生えるつる性植物。葉は3出複葉で対生、小葉は卵形、先端はとがり、縁に不揃いの鋸歯がある。花はセンニソウによく似ているが、やや小さめの十字花で白いがく片の外側に白い毛がある。和名は葉がボタンに似ていることによる。	
マツカゼソウ	ミカン	マツカゼソウ		東山作業路 薬草園	7/26	暖地の林縁に多く、高さ50～80cmの多年草。枝先に花序を出し、白色の小さな花を多数つける。葉には油点があり、もむとかんきつ類のような香りがする。名は秋風に揺れる草の姿から風流人が名づけたとされる。	
マツムシソウ	スイカズラ	マツムシソウ		管理事務所前	7/22	山地の草原に生える2年草。根生葉はロゼット状で冬を越す。花は紫色、直径4cmほど。上向きに咲く。縁の小花は5裂し、外側の裂片は大きい。	
ムクゲ	アオイ	フヨウ	ハチス	見本園 わんこひろば横	6/25	各地で栽培され植栽されおり、高さ3～4m。花は8～9月、本年枝の葉脈に花をつける。花弁の色は様々で一重・八重咲き等がある。韓国の国花。	
メドハギ	マメ	ハギ		浄水場内	7/26	日本各地の日当たりのよい野原の普通に見られる多年草。花は夏から秋、閉鎖花をつける。和名は筮萩(めどぎはぎ)が略されたもの。中国の著(めどぎ)になぞらえて茎を占いの筮竹の代用品とした。	
ヤマハギ	マメ	ハギ		西山作業路		草地や林縁にふつうに見られる高さ2～3mの落葉低木。小葉は長さ2～4cmの広楕円形または広卵形で先は丸い。花は7～9月、花序は基部につく葉より長い。花は紅紫色で長さ約1.5cmになる。	
リンボク	バラ	バクチノキ	ヒイラギカシ	センター池沿い 遊歩道上る		山地の谷間などの照葉樹林内などに生え、高さ5～10mになる。葉は互生し、長さ5～8cm、幅2～3cmの狭長楕円形または狭倒卵形。花は9～10月に新枝の葉のわきから5～8cmの総状花序をだし、小さな花を多数つける。	